（別紙1）

従業者向け　放課後等デイサービス評価表

○ 本評価表は、放課後等デイサービスに従事する従業者の方に、事業所の自己評価していただくものです。
「はい」又は「いいえ」のどちらかに○を記入するとともに、従業者の視点で、「事業所が工夫していると思う点」や「改善が必要だと思われる点」などについて記入してください。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫していると思う点・改善が必要だと思われる点など	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	17	1	学童のスペースとしては狭いと思うが、スペースをうまく使って 活動する努力をしていると思う。	特性や活動内容に応じて環境調整を行い、安全かつ安心して過ごせる空間づくりに努めている。また、利用状況に応じた人員配置を行い、個別性に配慮した支援体制を整えている。	現在の環境整備に加え、こどもの特性に応じた空間の使い分けや動線の工夫について、さらなる改善が必要であると考えられる。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	15	3	忙しいと思う時はあるが、職員のスキルが上がってきており対応 しつつあると感じる。 日によって差があると感じている。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	15	3	フラットであるのでバリアフリーの第一はクリアされているが、 障がい特性は課題。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	15	3	清掃は毎日きちんと行えている。"子供に合わせて"は今後も検討。 清掃や消毒などがしっかり行われている。		
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）	15	3	非常勤（時短勤務）者も多く、情報共有がうまくいかないこともあ るが、話し合い改善傾向にある。	ミーティングや日々の業務の中で職員間の情報共有を行い、業務改善に取り組んでいる。また、保護者や職員の意見を把握する機会を設けている。	振り返りや情報共有の機会について、より確実に実施できる体制づくりや、外部評価の活用について検討が必要であると考えられる。
	6	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設	15	3	面談での様子を公開してくれることにより、改善しつつある。		
	7	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	15	0	職員全体会議を始めたことによって、これから1人1人の意見が 反映されると思う。		
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	18	職員への情報共有がない。もし行っているとしたら、共有して ほしい。		
	9	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	15	3	まだ業務優先の時間配分になっているが、職員の意欲は高い。	法人内研修や外部研修への参加機会を設け、職員の専門性向上に努めている。	研修内容の実践への落とし込みや、継続的なスキル向上につなげる仕組みづくりが必要であると考えられる。
適切な支援の提供	10	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	17	1	計画表は利用者の思いに添って作成されていると思う。あとは 職員が努力することが重要。	アセスメントに基づき、こどもや保護者のニーズを踏まえた支援計画を作成し、職員間で共有しながら支援を行っている。	アセスメントの精度や支援内容の共有について、さらなる向上が必要であると考えられる。
	11	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	17	1	「医療」を必要とする児に対してのアセスメント力が十分でな い。看護チームの努力が必要。		
	12	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	17	1	全体で話あう場があまりない中で、自発管は対応しているが職員 1人1人の思いは考慮・共有できている。		
	13	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか 。	17	1	職員は計画は把握できていると思うが、適切な支援はこれから もっとできる。		
	14	こどもの適応行動の状況を、 標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、 日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	15	3	これからの重要課題。		
	15	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	17	1	同上		
	16	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	18		保育チーム・支援チームはよく動いているが、看護チームはこれから。医療面・看護的視野からみた提案が必要。	こどもの発達や興味に応じた活動を取り入れ、個別活動と集団活動を組み合わせながら、活動が固定化しないよう工夫している。	活動内容のさらなる充実や、こどもの主体性・自己選択を促す支援の強化が必要であると考えられる。
	17	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	17	1	毎月プログラムが組まれている。		
	18	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	16	2	書類上はできているが、今後の課題。	支援前後の情報共有や記録の作成を行い、支援の継続性を保つよう努めている。	打ち合わせや振り返りの実施状況にばらつきがあるため、確実に実施できる体制づくりと、記録を支援改善に活かす仕組みの強化が必要であると考えられる
	19	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	12	6	職員間でじっくり話し合う時間が少ないが、努力はしている。 必ずとはいかないこともある。		
	20	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支	11	7	その日の振り返りがうまくできない。欠点ばかり上げてしまい、 振り返りにならない。		

	21	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	16	2	保護者向けの記録に関してはとても良いものができているが、 事業所としての記録の勉強をしたい。		
	22	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	17	1	自発管に頼りきりになり、片寄ってしまっている。		
	23	放課後等デイサービスガイドラインの「４つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	16	2	「医療」を必要とする児に対してのアセスメント力が十分でな い。看護チームの努力が必要。放デイとしての個別活動は重		
	24	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	16	2	気持は十分あるが、まだ不十分。		
関係機関や保護者との連携	25	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	18		担当者は出席している。	関係機関や学校と情報共有を行い、こどもの状況に応じた支援に努めている。	連携の頻度や内容について、より一層の強化と体系化が必要であると考えられる。
	26	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	16	2	児の周りにどんなフォロー体制が介入しているかを、全員が把握 してからのステップ。		
	27	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	16	2	保護者からの情報に頼る部分もあるが、教員との コミュニケーションはとっている。		
	28	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	15	3			
	29	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	14	4	今年第一号が出る。次の児に役立てるためにも準備していく。		
	30	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか 。	13	5	見学や研修を通して機会が得られれば良いと思う。	状況に応じて地域との関わりや交流の機会を設けている。	感染症等の状況を踏まえつつ、無理のない形での交流機会の拡充が必要であると考えられる。
	31	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	13	6	保育園に行ったり、図書館等出かけている。 地域の他の子どもとの交流は少ないと感じる。 保育園児たちとの交流が無くなったのはなぜですか？		
	32	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	6	12	職員全員が把握していない。		協議会参加後の全体周知に努めていく
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	15	3	送迎や連絡ツール、保護者会を行っている。全体の意欲は向上 している。	日常的な情報共有や面談を通して、保護者との信頼関係の構築に努めている。	相談支援や情報提供について、さらに充実した対応ができるよう体制強化が必要であると考えられる。
保護者への説	34	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	17	1	話し方は丁寧であると思うが、内容を把握していないことも多い。		
	35	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	17	1	子どもの意思尊重に対して、重症児について考えていく事が課題。	こどもや保護者の意思を尊重し、面談等を通して意向やニーズを丁寧に確認したうえで、こどもの最善の利益を踏まえた支援計画の作成に努めている。	意向確認の機会について、より丁寧かつ継続的に行えるよう体制の強化を図り、こどもや家族の思いをより反映できる支援につなげていく必要があると考えられる。
	36	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか 。	18	0	保護者との面談を通して、意見・同意を得ていると思う。	計画を提示しながら支援内容について丁寧に説明を行い、保護者の理解と同意を得たうえで支援を実施している。	説明内容について、より分かりやすい表現や資料の工夫を行い、保護者の理解をさらに深められるよう改善が必要であると考えられる。
	37	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	18	0	面談を行っているが、十分とは言えないかもしれないけれど、 努力はしている。	日常の関わりや面談を通して、保護者からの相談に適切に応じ、子育てに関する助言や支援を行うよう努めている。	相談支援の機会をより充実させるとともに、相談しやすい環境づくりや継続的な支援体制の強化が必要であると考えられる。
	38	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	18	0	保護者会・イベント等を行っている。全員の交流の機会はない が、努力している。ただ、兄弟児に対しての支援はこれからの課題。	保護者会やイベント等を通して交流の機会を設けている。	より参加しやすい形での交流機会の設定や継続的な実施が必要であると考えられる。

明等	39	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	18	0	苦情・助言に対してはきちんと受けとめる姿勢を持っている。 同じことを繰り返すことがある。	苦情対応の体制を整備し、相談や申入れがあった際には迅速かつ丁寧な対応を心がけている。また、保護者に対して相談窓口や対応体制の周知を行い、安心して相談できる環境づくりに努めている。	苦情や相談内容の共有および再発防止に向けた取組について、職員間での情報共有をさらに強化し、組織的な対応力の向上を図る必要があると考えられる。
	40	定期的に通信等を発行することや、 HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	17	1	送迎時やHugを通したりで発信している。	通信やSNS等を活用し情報発信を行うとともに、個人情報の適切な管理に努めている。	情報発信の方法や内容について、より分かりやすく効果的なものへと改善が必要であると考えられる。
	41	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	17	1	注意しているつもりでもしていないときがある。		
	42	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	18		1人1人の努力はあると思うが、共有してもっと向上できると思う。	こどもや保護者一人ひとりの特性や理解力に応じて、言葉かけや視覚的支援等の工夫を行い、意思疎通や情報伝達が円滑に行えるよう配慮している。	個々の特性に応じた伝達方法について、さらなる工夫や職員間での共有を進め、より分かりやすく伝えられる支援体制の強化が必要であると考えられる。
	43	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	14	5	会社全体では行っているが、当事業ではまだできていない。 地域住民を招待することは少ないと感じる。	地域との関わりを意識し、事業所内でのイベントや外出活動等を通して、こどもが地域と接する機会を設けるよう努めている。	地域住民との交流機会については限定的であるため、今後は感染症の状況等にも配慮しながら、無理のない形で地域に開かれた取組の充実を図る必要があると考えられる。
非常時等の対応	44	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	18		定期的に行っている。職員数が少ない中、がんばっていると思う。	事故防止、緊急時対応、防犯、感染症対策等の各種マニュアルを整備し、職員への周知を行うとともに、訓練を通して対応力の向上に努めている。	マニュアルの内容について、より実践に即したものとなるよう見直しを行うとともに、定期的な訓練の充実を図り、職員の対応力向上をさらに強化していく必要があると考えられる。
	45	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	18		同上	業務継続計画（BCP）を策定し、非常災害に備えた避難や救出等の訓練を定期的に実施することで、緊急時に適切に対応できる体制づくりに努めている。	訓練内容について、より実際の場面を想定した実践的なものへと発展させるとともに、職員一人ひとりの対応力向上につなげていく必要があると考えられる。
	46	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認	17	1	予防接種の確認は今後必要と思われる。	服薬状況や既往歴、てんかん発作等のこどもの健康状態について事前に確認し、職員間で情報共有を行いながら、安全に配慮した支援を行っている。	健康情報の共有方法について、より確実に伝達できる仕組みづくりや、緊急時対応のさらなる統一が必要であると考えられる。
	47	食物アレルギーのあるこどもについて、 医師の指示書に基づく対応がされているか。	17	1	保護者からの聞き取りはしている。重症アレルギー児には医師と コンタクトしていく。	医師の指示書に基づき、食物アレルギーのあるこどもに対して適切な対応を行い、安全管理の徹底に努めている。	アレルギー対応について、職員間での理解の統一や確認体制の強化を図り、より確実な安全管理につなげていく必要があると考えられる。
	48	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、 その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	14	4	安全管理が充足しているとは言えない。	安全計画を作成し、必要な研修や訓練を実施することで、安全管理の徹底に努めている。また、日々の支援においてもリスクを想定しながら安全に配慮した支援を行っている。	安全管理に関する取組について、より実践的な内容へと充実させるとともに、職員一人ひとりの危機意識の向上につなげていく必要があると考えられる。
	49	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	17	1	保護者への周知をしている。	安全計画に基づく取組内容について、保護者へ情報共有を行い、こどもの安全確保に向けた連携に努めている。	安全に関する情報提供について、より分かりやすく丁寧な周知方法の工夫や、継続的な情報共有の強化が必要であると考えられる。
	50	ヒヤリハットを事業所内で共有し、 再発防止に向けた方策について検討をしているか。	18			ヒヤリハット事例を職員間で共有し、再発防止に向けた検討を行うことで、安全意識の向上に努めている。	ヒヤリハットの活用について、より具体的な再発防止策の徹底や、全職員への共有の強化が必要であると考えられる。
	51	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、 適切な対応をしているか。	18		虐待とは何かを理解している事が重要。	虐待防止に関する研修の機会を設け、職員の意識向上と適切な対応の徹底に努めている。	虐待防止について、継続的な研修の実施とともに、職員間での理解の統一や日常的な意識づけの強化が必要であると考えられる。

	52	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	18		身体拘束とは何かを理解している事は必要。	身体拘束が必要となる場合については、組織的に判断し、事前に保護者へ説明し同意を得たうえで、個別支援計画に記載する等、適切な対応に努めている。	身体拘束に関する判断基準や対応について、職員間での共通理解をさらに深め、適切な運用の徹底を図る必要があると考えられる。